

## 4641 アルプス技研

今村 篤 (イマムラ アツシ)

株式会社アルプス技研社長

### 稼働人数・単価が伸び、過去最高業績をさらに更新、増配

#### ◆2017年12月期の決算概要

底堅い人材需要に支えられ、外部環境は良好であった。製造業を中心に、とりわけ売上の4割を占める自動車関連の開発投資の増加により、派遣要請が増加した。また、人材業界は、引き続き派遣要請が旺盛である。採用面では、他社との人材獲得競争が激化している。

2017年12月期の決算概要について、連結は売上高302億60百万円(前期比13.1%増)、営業利益32億38百万円(同13.3%増)、経常利益32億75百万円(同11.1%増)、当期純利益23億67百万円(同19.1%増)となった。個別は、売上高250億49百万円(同10.8%増)、営業利益28億94百万円(同15.4%増)、経常利益31億37百万円(同17.5%増)、当期純利益23億63百万円(同34.4%増)となった。

営業利益率は10.7%で着地した。主な要因は、年間を通じた高稼働率の維持、単価の上昇、稼働人数の増加である。一方、社員の定着率を上げるための処遇向上により原価が増加した。

2017年12月末時点の技術社員数は3,175人(前期末比278人増、9.6%増)、稼働人数は3,088人(同291人増、10.4%増)、契約単価は3,903円(同47円増、1.2%増)となった。稼働工数は働き方改革の影響で171.8時間(同1.7時間減、1.0%減)となった。契約単価は、売上を構成する実単価と異なり、残業代を含まない。残業代を含めた実単価は4,000円超となっている。推移を見ると、新卒早期稼働が年々進展し、売上に寄与している。当社の場合、全員が正社員採用で、新卒者は4~5月に教育を受ける。新卒の派遣は6月からスタートするケースが多い。その結果、稼働率は第2四半期から上昇する。

業種別売上高について、主力の自動車関連は40%を維持している。また、電機関連が7.6%、精密機器関連が13.0%で伸長した。半導体関連は、半導体装置メーカーも含めて要請が旺盛となっている。

売上上位10社は、自動車関連、半導体関連で占めている。売上の上位10社比率は、過去3年間で徐々に下がり、2017年12月期は19.4%である。顧客の裾野を広げるため、上位10社比率は20~25%となるよう、ポートフォリオをつくっている。東芝グループは、2017年4月以降の分社化に伴い、東芝と東芝メモリ2社に分けている。

#### ◆2017年12月期の施策結果

2017年は、4月に新卒技術者242名、10月にベトナム・中国のグローバルエンジニア37名が入社した。4月入社の新卒は6月末迄に、10月入社は12月末迄に全員の派遣先が決定するというスピード感であった。キャリア採用についても、入社後に研修があるものの、早期稼働のサイクルが確立している。より長く、安心して働くための処遇向上施策として、異動に伴う住宅手当の増額などを実施し、定着率の向上に貢献している。また、技術者発信型の取り組みとして、技術者が自らの活躍の場を創出する仕組みを構築し、キャリア形成に寄与している。近年はグローバルエンジニアを中心としたイベントも盛んに行っている。

グループ会社の状況について、アルプスビジネスサービス(ABS)は業績が伸びている。同社はものづくり工程のうち、評価から製造を事業領域としており、高い稼働率となっている。パナR&Dは200人規模の会社で、グルー

プシナジーを発揮し、新卒採用も例年より増える見込みである。請負の成果も出ている。

## ◆2018年の通期施策

個別施策について、2019年は4月入社の新卒250名、2018年キャリアは120名の採用を予定している。激戦の中でも動きは早く、目標達成に向け活動している。また、ABS、パナ R&D とのグループシナジー強化のため、採用も連携していく。グローバルエンジニアの採用は、今年も10月に行う予定である。

教育については、50年で培った教育ノウハウを生かした教育研修を実施していく。また、AIやIoTなど成長産業参入に向けた研修を積極的に行う。顧客と研修内容を検討し、特定の顧客向けの教育カリキュラムも実施したい。

営業については、成長産業分野で重点的に展開し、研修を絡めたソリューションを提供していく。また、CS向上に向けたグループ営業を強化する。顧客から要請が増える中、フル稼働に近い状態が続いており、すぐに人材を提案できない場面もあるが、パナ R&D で設計を請け負うなど、グループシナジーを発揮しながら営業を進めていきたい。さらに、技術者自ら成長を実現するため、志向するキャリアを一人ひとりデータベース化している。それを元に要請とマッチングさせる仕組みを導入しているが、社員が成長を実感できる仕組みを更に強化していきたい。

グループの施策について、国内事業はABSの採用を強化し、事業拡大、教育整備、処遇改善を図る。また、パナ R&D の受託部門を更に強化する。海外事業について、台湾、上海の現地法人では既存事業の拡大を図り、ミャンマーのヤンゴン支店では介護関係の人材を教育し、日本へ送り出すスキームの構築に向け準備している。日本国内のグローバルエンジニアの受け入れとして、中国・青島では大学との連携、ベトナムでは現地教育機関との連携により採用を拡大していきたい。

## ◆中長期成長ビジョン

現在、高度技術サービスを提供しているが、中長期成長ビジョンとして高単価ゾーンの最先端技術の開発設計業務への進出、グローバルに目を向けた新規事業を考えている。

4月2日付で、アグリと介護の新会社(株)アグリ&ケアを設立予定である。アグリについては、就農年齢の高齢化で農業を担う人材の不足が社会的な問題になっており、農業の大規模化、法人化が進む中、アグリ人材サービスを提供していきたい。人材は単なる作業員ではなく、新会社と当社の連携により、アグリと技術を合わせた「アグリテック」というサービスを提供する。たとえば、農業用の加工機械、ロボット開発などを考えている。ロボット開発については、(株)日本総合研究所、慶應義塾大学等と共に研究開発を行っている。介護については、外国人技能実習制度で門戸が開いたため、ミャンマー人の送り出し支援をしていく。

2018年度通期の業績予想は、連結が売上高324億円(前期比7.1%増)、営業利益34億30百万円(同5.9%増)、経常利益35億10百万円(同7.2%増)、当期純利益23億70百万円(同0.1%増)としている。個別予想は売上高268億円(同7.0%増)、営業利益30億10百万円(同4.0%増)、経常利益32億40百万円(同3.3%増)、当期純利益22億30百万円(同5.6%減)としている。

2018年度個別当期純利益はマイナスの予想としているが、これは特殊要因である特別利益1億41百万円の計上が2017年度のみであり、また2018年度は50周年関連で費用の増加を見込んでいるためである。本業は好調に推移する見込みである。

配当に関しては、連結ベースでの配当性向50%を基本とする。また、中間配当金は年間配当金の50%をめどとする。当期の配当予想は104円(中間52円、期末52円)だったが、利益の上振れにより期末配当を12円増配し、年間116円となる見込みである。今期の予想は、年間68円(分割前換算136円)である。内訳は中間配当39円(うち、創業50周年記念配10円)、期末29円である。2018年1月1日付で、1対2の株式分割を行ったことにより、最低の年間配当は従来の20円から10円(中間5円、期末5円)とし、維持していく。

今期は50周年を第2創業期と捉え、その礎をつくり、着実に成長を達成していきたい。

当期実績と中期経営計画の公表比は、売上高は中計 290 億円の目標に対して、実績は 302 億 60 百万円、営業利益は 30 億 70 百万円の目標に対して 32 億 38 百万円であった。当社は毎年ローリング的に 3 年先を見据えた数値計画の見直しを行っている。新中計初年度となる今期は、売上高 324 億円を目標とする。昨年公表の中計から更に今期 3.8%増、2019 年度は 3.9%増と伸ばしている。

新中期経営計画は、第 10 次 5 年計画として「イノベーションによる企業規模の拡大、～創業 50 周年に向けた成長の加速～」で施策を遂行してきた。今期は 7 月に第 11 次 5 年計画がスタートする。ROE については 18%以上を維持していきたい。

中計の各施策は、一つ目は技術、産業の変化を先取りし、高度で多様な技術サービスを提供する。二つ目は関係会社の自立、成長により当社グループの規模拡大を加速する。三つ目はアジアに展開するグローバル企業グループへの躍進である。

創業 50 周年の記念事業として、第 2 創業期のシンボル「アルプス技研第 2 ビル」を建設している。新会社のアグリ&ケア、ABS、パナ R&D も入居予定である。研修設備も入れて、技術力の向上を図っていく。また、50 周年記念の社会貢献の一環で、これまでお世話になった各自治体、福祉協議会等に昨年より車椅子を寄贈している。6 月末までに約 450 台を寄贈したい。さらに、次世代の強みをつくるべく、採用の強化、広告宣伝の強化、海外ビジネスの創出などを推進している。今期は昨年からスタートしたテレビ CM の回数を増やし、採用や営業に結びつけていきたい。

## ◆ 質 疑 応 答 ◆

**契約単価の上昇の要因は何か。**

本人の努力による技術力の向上が単価上昇につながっている。また、需給逼迫も影響している。

**国内の採用が厳しい状況で、グローバル人材を増やしていく考えはあるのか。**

グローバルエンジニアに関しても優秀な人材を正社員で採用しており、更に増員をはかっている。

**新事業のアグリと介護は、中期経営計画にいつ頃反映しそうか。**

アグリ、介護ともに今期はまだ準備段階であり、中計には織り込んでいない。

**派遣先に大手自動車メーカーがあるが、新入社員がメーカーではなく、御社への入社を希望する理由を伺いたい。**

個別で理由は異なるが、取引先が 700 社以上あることから、自分の携わりたい製品や技術領域の開発・設計にチャレンジできる、様々な経験ができる、時流に応じ好調な分野にシフトできる、雇用の安定などが評価されているようだ。

**新卒採用とキャリア採用の比率を伺いたい。**

新卒採用 250 名、キャリア採用 120 名を予定している。創業以来 50 年間、新卒を主軸に採用活動を行い、当社で教育して、高度技術サービスを提供することを基本としている。会社の規模が大きくなり、技術が進歩する中、キャリア採用も増やしている。

**現場で新技術が出てきたとき、研修はどう対応しているのか。**

基本的なことは当社で対応している。現場には当社社員が複数名いることが多く、先輩が後輩を指導する。当社の営業所で週末や定時後に勉強会を開くこともある。

**アグリ&ケアは、外国人を派遣するのか。**

大多数はミャンマー人、中国人などを予定している。外国人を育成するリーダー的な日本人の採用も予定している。

**当期は海外事業で原価の上昇が見られたが、今期の見通しを伺いたい。**

これは一過性のものであり、2018年度は通常の水準に戻る見込みである。

(2018年2月16日・東京)

\* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見るができます。

<http://www.alpsgiken.co.jp/ir/library/pdf/data/ir20180216.pdf>